

「見つけよう、美」 ～桜のある日本庭園をつくろう～

本単元で育成する資質・能力

(教科) 日本の美術文化が大切にしてきたことを探り、鑑賞の能力を高める。

(学校) 表現力、コミュニケーション能力、主体性

- 1 日時 平成30年11月16日 14:35～15:25
- 2 学年 第2学年3組 (男子18名 女子19名 合計37名)
- 3 場所 美術室
- 4 単元について

○ 本題材は、日本庭園をミニチュアで作りながら、日本の美術文化が何を大切にしてきたのかを探っていく鑑賞中心のものである。日本庭園は自然とともにある。日本の庭園は、自然との調和の中にあり、境界を感じられない。それに対して、西洋の庭園、例えばヴェルサイユ宮殿の庭園では庭と自然との間にくっきりとした境界線が見て取れる。自然を大切に思う日本の文化が顕著に表れることから日本庭園という題材を選んだ。

グループでの話し合いや、ミニチュアを作る活動を通して、日本の美術文化が自然を大切に思う中で育まれてきたことに気付かせていく。生徒はこれまでに和菓子や日本の伝統色、屏風などの日本美術を学んできた。各題材では、四季や花鳥風月を取り入れたデザインや、日本の風景の中にある色彩、日常生活に溶け込んだ日本美術を味わっている。これまでの学習を思い起こしながら日本美術の精神について探っていき、美術を通じた国際理解への第一歩とする。

○ 本学級の生徒は、アンケートで次のように答えている。

美術の授業に満足しています。	肯定的回答 87%
授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないか」と予想しています。	肯定的回答 86%
授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	肯定的回答 86%

以上の結果から、美術に対しての意欲が高い。予想をたてて試してみたり、班活動で他者と意見を交わしたりすることができる。発表では消極的になる場面もあり、コミュニケーション能力や主体性に課題がある。

○ 本時の活動では、美術室横の桜の木周辺に庭園を作るという想定で、グループ協議を行う。普段この桜の木は美術室に来る生徒や教員の目にしか触れる機会がない。いくつかのヒントを元に、日本庭園が自然とともにあることに気付かせながら、元からある桜の木を活かし、風景に溶け込むような庭園を生み出していく。グループでミニチュア庭園を作ったり、意見を交流したりすることにより、自分一人では気付かなかった価値に気付かせる。また他グループの作品を鑑賞し、考えを聞くことで自分の考えと比べて見方を深めていく。

指導に当たっては、ミニチュア庭園を作ることを通して、日本美術が大切にしてきたことを想像する主体的な態度を重視する。またミニチュア庭園を作ることで終わるのではなく、グループ活動で他者とコミュニケーションを取り、自分なりの考えを言葉と作品で表現する。生徒から出たキーワードを分類することによって整理し、日本美術が大切にしてきたことが浮かび上がってくるよう導いていく。

5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科、領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量を高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

	資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3
知識・スキル	授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）			
	表現力・コミュニケーション能力	（話す） 自分の考えや意見を、自分のことばで、表現することができる。	わかりやすく（伝える） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、自分のことばで、表現することができる。	（説得する） 自分の考えや意見を、わかりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で、表現することができる。
		（聞く） 相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、聞いている。	（聴く） 話の組み立て構造を考えながら、相手の意図や要点を整理しながら、聴くことができる。	（訊く） 相手の考えについて根拠の信頼性を判断しながら、訊くことができる。話された内容と自分の意見をふまえて疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。
		聞いて質問することができる。 （やりとり1回）	さらに深めた質問ができる。 （やりとり2回）	質問の後に自分の意見を述べ、内容を深めることができる。 （やりとり3回以上）
意欲・態度	主体性	課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで、取り組もうとしている。	自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで、取り組もうとしている。

6 目標

- 日本の美術文化が大切にしてきたことは何かを探ることができる。

7 評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
日本の美術文化に対する理解を深めようとしている。	日本や諸外国の美術作品を鑑賞し、それぞれの良さに気付くことができる。

8 指導計画（全1時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評 価	
			関意	工夫	技能	知理	評価規準	資質・能力 （評価方法）
プロローグ（単元を貫く問い） 日本の美術文化が大切にしていることは何だろう？								
	1	桜が映える「日本庭園」をつくろう。 （1時間） 【本時1／1】	○			○	・日本の美術文化に対する理解を深めようとしている。 ・日本や諸外国の美術作品を鑑賞し、それぞれの良さに気付くことができる。	【主体性】 （話し合い） 【コミュニケーション能力・表現力】 （ワークシート，発表）
エピローグ（単元を貫く問いの解決） 日本の美術文化は自然との調和を大切にしている。								

単元を貫く問い

9 本時の展開

(1) 本時の目標

○日本の美術文化が自然との調和を大切にしてきたことに気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

・日本の美術文化が大切にしてきたことは何か，自分なりの考えを表すことができる。

（鑑賞の能力）

(3) 準備物

ワークシート，マジック，箱，石，砂，小麦粘土，パソコン，実物投影機，テレビ

(4) 学習の流れ（全1時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手だて）	評価規準〔観点〕 ★資質・能力（評価方法）
1 既習事項の確認。〔3分〕		
・日本の美術文化の良さを考える。	◇これまで学習した日本の美について実物を見て振り返る。（伝統色，屏風，和菓子）	
2 本時の課題を設定する。〔5分〕		
	◇美術室から窓の外の景色を眺める。 ◇春に撮影した美術室横の桜の写真を見る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 学習課題 桜が映える「日本庭園」をつくろう。 </div>		

導入の工夫

3 ねらいを確認する。[2分]

ねらい

○日本の美術文化が大切にしてきたことは何か探りながら、桜のある日本庭園を作ることができる。

4 情報を整理・分析し、課題解決をする。[20分]

小グループの活用

・既習事項をヒントに、日本の美術文化が大切にしてきたことは何か、班で交流してワークシートに記入する。

・与えられた材料を使って、日本庭園をつくる。
・2つのヒントをもとに、話し合いながら庭園をつくる。
・考えをワークシートやカードに記入する。

◇四季や花鳥風月をデザインした和菓子や、生活の中にある美術文化を思い起こさせる。

◆資料画像を使って、日本美術のイメージを抱かせる。

◇複数の意見が出たときは、互いの考えを尊重させる。

◇単なる制作にならないようにする。

◆まず材料を置くところから始めて、イメージを徐々に膨らませる。

日本の美術文化に対する理解を深めようとしている。

[関心・意欲・態度]

★表現力・コミュニケーション能力（話し合い）

★表現力・主体性（制作）

予想される生徒の反応

- ・日本庭園ってなんだろう。テレビで見たことがあるけど、こんなイメージかな。
- ・一学期に習った和菓子のデザインは花鳥風月をモチーフにしていたから、そこにヒントがあるかもしれない。
- ・外国の庭やティーカップは左右対称だけど、日本の庭や器はいびつな形をしている

05 課題解決について発表をする。[13分]

・ミニチュア庭園の制作意図を述べながら、日本美術が大切にしてきたものは何か発表する。

◇実物投影機でミニチュア庭園をテレビ画面に映す。写真を撮る。

◇キーワードが書かれたカードを黒板にはる。

日本の美術文化に対する理解を深めようとしている。

6 学習のまとめをする。[5分]		
・クラスで出た意見から、日本美術が大切にしてきたことを考える。	◇キーワードを分類・整理し、日本美術が大切にしてきたことが浮かび上がってくるよう導く。	日本や諸外国の美術作品を鑑賞し、それぞれの良さに気付くことができる。
7 本時を振り返る。[2分]		
・振り返りを書く。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>生徒の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化は自然との調和を大切にしていることがわかった。自然と美術を切り離して考えるのではなく、境界線のないものだと思った。西洋の庭は左右対称で、庭と自然との境界線がはっきりしていた。考え方の違いが庭や美術品にも表れていると感じた。 ・日本の文化は自然を大切にしていることがわかった。日本の庭も西洋の庭もそれぞれに良さがあると思った。 ・日本の庭や美術品は左右対称でないものが多かった。西洋の庭の方が好きだと思った。 </div>	

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	記述語
A（理想的）	日本の文化は自然との調和を大切にしていることがわかる。 西洋の文化との相違点についても理解できる。
B（合格）	日本の文化は自然を大切にしていることがわかる。
C（乗り越えさせたい実態）	日本の文化のイメージが曖昧である。

(5) 板書計画

学習課題 桜が映える「日本庭園」をつくろう。

ねらい 日本の美術文化が大切にしてきたことは何か探りながら、
桜のある日本庭園を作ることができる。

和菓子
写真

伝統色
写真

屏風
写真

日本の文化は

(生徒の意見)

(生徒の意見)

(生徒の意見)

(生徒の意見)

を大切にしている。

